

無痛分娩に関する麻酔説明・同意書

久我山病院麻酔科

説明医師

年 月 日

無痛分娩は産婦人科医と麻酔科の専従医師が共同して担当いたします。

無痛分娩の麻酔方法、硬膜外麻酔

背中(腰の辺り)から注射を行い、脊髄の近くの硬膜外腔という場所にカテーテル(柔らかくて細い管)を挿入します。通常は横向きに寝た状態か、場合によっては座った姿勢で行います。挿入したカテーテルより局所麻酔薬を投与して、分娩時の痛みを和らげます。

カテーテルには専用のポンプを接続して、痛みと感じた際に付属のボタンを押すことにより、患者様ご自身で痛みをコントロールすることができます。

無痛分娩開始後、食べ物は控えていただきますが、水・お茶・スポーツドリンクなどは飲んでいただけます。下半身に力が入りにくくなりますので開始後は基本的にベッド上で安静となります。

また、尿意を感じにくくなるので、排尿のためのカテーテルを入れる必要があります。

起こり得る問題点

分娩が長引くことがあります、また陣痛促進剤を使う可能性が高くなります。鉗子分娩・吸引分娩の可能性が高くなります。熱が高くなることがあります。

硬膜外麻酔の合併症

低血圧(10-20%)、背部痛(10%程度)、頭痛(2%程度)、痛み止め効果不十分(10%以下)

硬膜外麻酔の合併症(非常にまれなもの、0.1%以下)

局所麻酔薬中毒、高位・全脊椎くも膜下麻酔、硬膜外血腫、硬膜外膿瘍
1ヵ月以上持続する痛みや運動神経障害、痙攣など

また、緊急時には本同意書にて説明した以外の処置等を必要に応じて行うことがあります。

久我山病院 院長殿

私は、無痛分娩の麻酔とその方法、それに伴い起こり得る合併症や危険性などについて説明を受け十分に理解しました。麻酔および緊急事態を回避するために必要な処置を受けることに同意します。

年 月 日

同意者署名(本人)

代諾者署名

続柄()

*患者様が未成年者、あるいはご自分で署名困難な場合は代諾者の署名をお願いします。

*本同意書に署名後であっても、麻酔を受ける直前まで同意を取り消すことができます。